

サクランボ特報 No.2

R2. 3.30 No.2

J A 中野市営農センター

J A 中野市サクランボ部会

2 回分の防除を掲載しています

生育は、平年よりも 10 日程度進んでいると思われます。

定期防除・管理作業は遅れないよう計画的に実施して下さい。また、乾燥状態が続く場合は灌水を実施して下さい。

第 2 回 定期散布

散布時期	開花直前（散布日の目安：4月8日～13日）		散布日		4月	日
散布薬剤	水	100ℓ当り	散布量		ℓ	
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml				
	オンリーワンフロアブル	50ml（収穫前日まで、3回以内）				
散布量	10アール当り	350ℓ				
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ オンリーワン					
対象病害虫	灰星病、炭そ病、黒斑病、褐色せん孔病					

【注意事項】

- ① ハマキムシ類 発生園は、フェニックスフロアブルの 4,000 倍（収穫前日まで、2 回以内）を加用する。
- ② オンリーワンフロアブルに代えて、ベルコートフロアブルの 2,000 倍（収穫 7 日前まで、3 回以内）でもよい。
- ③ 隣接する園地や他作物に飛散しないよう注意する。

第 3 回 定期散布

散布時期	落花直後（散布日の目安：4月20日～25日）		散布日		4月	日
散布薬剤	水	100ℓ当り	散布量		ℓ	
	展着剤（ハイテンパワー）	10mℓ				
	サムコルフロアブル10	40mℓ	（収穫前日まで、3回以内）			
	ナリアWDG	50g	（収穫前日まで、3回以内）			
散布量	10アール当り	400ℓ				
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ サムコル ⇒ ナリア（ナリアは別容器で少量の水に溶かしてから混用する）					
対象病害虫	ケムシ類、ハマキムシ類、灰星病、炭そ病、黒斑病、褐色せん孔病、幼果菌核病					

【注意事項】

- ① ショウジョウバエ類 発生園は、 バイスロイドEWの 4,000 倍（収穫 7 日前まで、2 回以内）を加用する。
（・・・ご購入の際は印鑑が必要です）
- ② 訪花昆虫保護のため、早朝に散布を実施する。（ミツバチを設置している場合は、引き上げ後に散布する）
- ③ ナリア WDG は、ぶどう・ピオーネ、洋梨・ルクチェ等に薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないよう注意する。

次ページもご覧ください

●凍霜害対策について

3月下旬の花芽が膨らみ始めた頃から開花前まで、低温遭遇（-2.2℃以下で30分以上）による花器障害が心配されますので、防霜ファンの稼働、園内の保温（燃焼資材デュラフレームの利用、加温設備のある園地では加温機の使用等）により対策を講じて下さい。

- ＊開花時に花器異常（貧弱花、めしべ欠落）が確認された場合。
- （１）開花状況をよく観察し、健全な花を中心に授粉を行ない結実確保に努めて下さい。
- （２）枝によって着果量が不足する場合は、樹全体で着果量を確保して下さい。

●訪花昆虫の導入について

雨除けハウスで、訪花昆虫を導入する場合は、ハウスの屋根もしくはサイド面の網・ビニールを必ず開けておくようにして下さい。（放花昆虫保護のため）

●葉面散布について

樹勢衰弱や葉色が薄い場合は、葉面散布を実施し、健全な葉の育成と光合成、初期肥大促進に努めて下さい。

＊葉面散布使用例・・・定期散布時に農薬と混用が可能です。（混用は最後です）

資材名	成分量	目的	倍率	使用時期	規格、参考価格	1000 散布 単価
ビビットグリーン	水溶性苦土 4%	苦土補給 葉の健全化 光合成促進	500 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1.2kg 1,430 円 5kg 4,410 円	238 円 176 円
液体硫酸マンガン	水溶性マンガン 13.5%	マンガン補給	200 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,040 円	520 円
グリーンデイズ	水溶性苦土 16% 水溶性マンガン 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	1,000 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,530 円	153 円

●摘果

- ① 時期：生理落果終了後。大豆大の頃。（高砂・香夏錦・紅秀峰など）
- ② 方法：1花束状短果枝当り3～4果を残す。残す果実は、縦長で肥大良好な果実、果柄が長い果実。
- ③ 注意：結実過多の樹を実施する。花器異常により、着果不足が心配される場合は、摘果を見合わせ、樹全体で着果量を確保する。

●かん水

- ＊ 記録的な暖冬により、土壌が乾燥傾向です。 必要に応じてかん水を実施して下さい。
- ① 時 期：発芽期～開花期、落花直後の肥大初期。
- ② かん水量：5～20^ミ程度。
- ③ 注意事項：土壌水分を確認の上、かん水量を調整する。特に開花期は高湿による花腐れに注意。
果実の地色が抜け始めると裂果の恐れがあるため、かん水量を控えめにする。
結実量が少ない樹や強樹勢の場合は、裂果しやすいため、かん水量を控えめにする。

●新梢管理

- ① 時期：満開後3～4週間頃。（5月上旬～中旬）
- ② 方法：5～6芽程度残して摘芯する。（葉枚数で4～5枚）

次回特報発行予定：4/30 頃
内容：第4回定期散布、今後の管理作業